
ゆーれい日記

破矢音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆーれい日記

【Nコード】

N9168Z

【作者名】

破矢音

【あらすじ】

「背中にゴミが存在していますよ」

超霊媒体質の俺こと燕つばくわ 黒夜くろひやに声をかけたのは、同じく靈感の強い俺の後輩、鳶谷とひたに 赤菜あかな。

初めての靈感仲間の後輩と、今日も元気に霊から逃げてまあああ
あす！！！！ って、だから追ってくんああああああ！！！！
！！！！

「たわしの名前はとびたにあかなです」(前書き)

1 話めからはちやめちや。

「たわしの名前はとびたにあかなです」

五月晴れ。

今の空はその単語がぴったりだ。

絶体絶命。

それが今の俺にぴったりの単語だ。

* * *

俺こと燕ひん 黒夜くろよは、私立 鳥が丘学園に通う中学三年生の14歳、所属はバスケット部で、エースなんかをやらせていただいている、ちょっと運動が得意なただの男子中学生で……

………はない。

別に、成績は中の下だけどそこまで悪い訳ではない。さらに態度がすごぶる悪いとか、髪の毛金髪、とか、そういう類のものでもない。もっとたちが悪い、体質的な問題である。

“ 靈感 ”

世間一般にそう言われる能力が俺を悩ませているのである。

はい、「いいなー」って思った奴拳手ー。んでもってどこが良いのか10文字以内で答えよ。

あのなー、靈感なんていいもんじゃねーぞー。むしろ悪い事ばかりか。

例を挙げるなら、取り憑かれたり生きてる人間と区別つかなかったり取り憑かれたり部屋の中で浮遊されたり取り憑かれたりetc……。

ちなみに、取り憑かれると病気にかかったりする。軽いもので微熱。重いもので肺炎。（俺の実体験より）

だから俺は霊を見たら極力逃げる様にしている。

けどさ、回避不可能な場合もあるんだよ。例えば今の状況みたいな。

【まってえええ、その肉体、私にちょうどいいいいいい】

さっきも言った様に絶体絶命。いや、あんな霊じゃ絶命はしないだろーけど。

つかなんなんだよツ！ 廊下の角曲がったらアイツ（霊）と鉢合わせとか、タイミングよすぎだろツ！ おかげさまでアイツ（霊）の顔とまじまじと見ちまったじゃねーか。ついでに、「顔についてる血落としたら結構美人だなー」とか思っちゃったじゃねーか。返せ！ 俺のときめきをかえせ！

【まってええええええええええええええええ】

「だああ！（霊が）しつけえ！」

「!? おい燕！ なぜオレがしつこいと言うのを知っている!？」

「さーせん！ 先生の事じゃないんで！」

「そ、そうか……あ！ 廊下は走るなよ」

むりつす。

そう思ったが、口にする頃には雀巢先生すずね先生は見えない所まで走っていた。

つか先生、しつこ……いや、触れないであげておこつ。

「…………はあ、…………はあ」

【まああてええええええええ】

やばい、やばい。俺の息、きれて来た。
どこか、どこか逃げる場所……………！

*

パタン…………

「ふう……………」

そう息をついた場所は図書館。丁度、角を曲がった所にあつたので滑り込ませていただいた。きつとアイツは廊下で一人疾走してんだらうな。

…………にしても、図書館を訪れるのは何年振りだ？

鳥が丘学園には小学校から通つてる俺だが、あまり読書に興味が無いためここにきたのは……………3回？

あれ？ そんなに少なかったけ？ とか思いつつ、俺は何となく図書館の中を散策してみる。

放課後と言う時間帯だからだろうか、閑散としている。

「へえ、英語の本もあるんだ……………」

一冊の本を手に取り、俺が呟く。パラパラ、と、ページをめくってみるがよくわからない。

「ま、英語だしな……………」

そう言つて、棚に本を戻したとき、

「背中にゴミが存在していますよ」

「え？」

少し高めの声。

振り返ってみると、そこには椅子に体育座りで座る金髪の少女。真つ白な肌と、鳶色の瞳からして恐らくハーフかなにかだろう。結構整った顔立ちだが無表情なのが玉に瑕。

「とりますか、それ」

右手に本、左手で俺の後ろを指差す。

「え、あ……じゃ、頼む」

「はい」

彼女に背中を向け、ネクタイの色からして中一かな、とか思う。

「いつまで、後ろ向いているのですか。取れましたよ」

「ああ、どうも……って、おまえ！」

【肉、肉体いいいい】

驚いた。俺、取り憑かれてたのか！

「なるほど、道理で肩が重かった訳だ……」

「あ、コレ捨てていいですか」

「ああ、どうぞ」

「どうも」

ボシユッ！！

【ぎゃあああああ……】

小さい爆発音と共に消える幽霊。何か残酷な気もするが、すまん！俺は自分が一番可愛い！

「あんまり、取り憑かない様に……？ 取り憑かれない？ あれ？ えーっと、」

日本語が苦手なのか、俺が「取り憑かれない様に？」というところ、「そう」といい、

「あんまり取り憑かれない様に、気をつけた方がいい」

そう決め台詞を残し、去ろうとする少女を
「待った」

俺は当然の如く引き止めた。

*

「なんでしようか」

「お前、「とびたにです」……え？」

少女が腰をかけている隣の椅子に座り、話しかけると彼女は急に名乗った。

「お前ではなく、たわしの名前はとびたにあかなです」

「うん、たわしじゃなくて、私な」

「え？ ……あ。すみません、たわさ……私、あんまり敬語が
上手くないんです」

私とたわしの問題は敬語以前の問題な気がする。

「なので、敬語、使わなくてもよろしくお願い致します……？」

なんか新しい言葉できたぞ今。

「……。あ、あのさ、別に、敬語使わなくてもいいぞ」

「誠にござるか!？」

「ああ、あんま俺気にしないし。つか今の口調の方が気になるんだが」

「でも、my motherがJapanでは目上の人に敬語を使わないとセツプクだ、と」

まじでか。じゃあ俺何回切腹すりゃいいんだ？

「とりあえず、切腹になんかならねーし、俺が良いって言うんだから良いんだ」

「……じゃあ、そうします」

「おう、そうしろ」

直ってない気がするがな。

さて。

「本題だが、お前、靈感あんのか？」

「うい、自分、名前はとびたに鳶谷 あかな赤菜といいやす」

「おい、話聞いてたか？」

「うい」

………

「靈感あんのか？」

「へい」

.....

「仲間みつけたあああああああああああ!!!!!!!」

「え、ちょ、先輩大丈夫つすか？」

真剣な顔で心配された。

「大丈夫だ」

「だ、だ、……だんごー」

「ご、ご……ごりら」

「ら……雷鳴の如く、唸れ！ おれの刀！！」

「な、な……って、なんでしりとり始まってんだよ！ しかもソレ文章だし！」

「のり突っ込みって奴っすか。先輩もやりますね」

なにがだ。

「ところで、先輩なまえは？」

「ん？ 俺の名前は燕 黒夜。なんて呼ばれようがかまわないぜ」

「じゃあ、“お兄ちゃん”で」

「なあ、なんで俺名乗らせたの！？」

「冗談ですよ（笑）」

「（笑）じゃねーよ（怒）。つか無表情でいわれると冗談に聞こえねーんだよ」

「そっすか。」

「じゃあ、冗談抜きで“黒ちゃん”とか」

黒ちゃんって……すげえフレンドリーになったなこいつ。

「ま、別にいいぜ何でも（お兄ちゃん以外）」

「（やつぱお兄ちゃんはダメか）んじゃ、黒ちゃん先輩で」

「え、先輩付んだ」

「うい、一応先輩ですし」

「失礼な奴だな！」

キーンコーンカーンコーン……

「あ、げこーれーだ。

さよならシンデレラ！ ボクはげこーれーがなったから帰らなきゃ行けないんだ……！」

「……俺シンデレラか!？」

つか俺も帰んなきゃいけねーんだよ。一緒に帰るか？」

「No thank you!」

無茶苦茶良い発音で返された。

「って、いいやすのも、自分は校門の近くにお迎えの車来てやすので。また今度、機会があったらかえりやしよう。」

「っーことで、また明日」

「ああ、また明日な」

……パタン。

……お迎えの……車？

……ま、いつか。

少し引つかかる所があったがまあいいやと割り切り、俺は初めての靈感仲間（少し変わった奴だが）が出来た事に胸を躍らせ、後に今日部活を無断でサボってしまった事に気づいて落ち込み、さらに明日が休みだと言う事にも気がついたのだった。

「たわしの名前はとびたにあかなです」(後書き)

うへい！ 書き終わっ太郎！

あ、調子にのってさーせん。とうかここまで読んで下さりありがとうございます。基本、作者が気分やなんで続くかわからんけど飽きるまでやるつもりです。

気が向いたら感想ください。

「あれだよ。自己紹介みたいな」(前書き)

今思った。

黒ちゃん、作者に似てるわW。

「あれだよ。自己紹介みたいな」

1話遅れの自己紹介（ネタバレしない程度のもの）

1：お名前をどうぞ

え？ 俺？ え、あ、つ、燕つばく 黒夜くろよです。

2：歳と学年、所属クラブ、委員会をどうぞ

えーと、14歳の鳥が丘学園中等部3年生で、男子バスケットボール部。委員会は保健体育委員。

3：身長と、血液型、良ければ体重も

確か……こないだの健康診断では175？の60？だった気がする。あ、俺B型な。

4：自分的に容姿を

ええ！？ 自分で言うんか……黒髪黒目で顔は……フツーじゃね？

5：利き腕と視力

右。両目ともに2.0

6：家族構成をどうぞ

じーちゃん、父さん、母さん、あと弟

7：特技は？

バスケ

8：使用武器を10字以内で

使用武器！？ねえよ！（10文字）

9：得意科目と苦手科目

体育と数学が得意で、……え、英語と音楽が苦手

9.5：作者への嫌みかああああああああ！！！！

知らねーよツツツツ！！

10：座右の銘とかあったりする？

自分に厳しく他人に優しく

11:.....ハッ

なんかバカにされた!?

12:好きな色、食べ物、本、音楽を1000文字以内でどうぞ

1000文字も語らねーよ!

質問順に、黒、松前漬け、バスケット情報雑誌、RADWIM

PS

13:苦手な事(人)

女子っぽい雰囲気醸し出してる奴

14:お小遣い使用例

スポーツ用品

15:趣味を挙げよ

いきなり偉くなったな。

えーと、安いリング集め?

16:カッコつけやがって(ケツ

だから何でさつきから喧嘩腰なの!?

17:日課

日課日課.....夕食作り?

18:不思議に思ってる事とか

不思議に?なんで俺が中三になっても尚“バスケット

のEース”なのか。

19:備考

靈感強し。

20:ごきょりよくあざーす

うわ、ちよーウゼエ。

*

1:お名前をどうぞ

とびたに あかな
鷺谷 赤菜つす。

2:歳と学年、所属クラブと委員会をどうぞ

12歳、鳥が丘学園中等部1年生。部活、委員会ともにな
いっすわ。

3：身長と血液型、良ければ体重も

……。143?、AB型、38?。

4：自分的に容姿を

チビじゃない! コンパクトサイズだっ!!

5：利き腕と視力

右。右目から、0.06と0.02。

6：家族構成をどうぞ

母親、父親。あとその他もろもろ

7：特技は?

歌う事。

8：使用武器を10字以内で

エクスカリバー(即答)

9：得意科目と苦手科目

日本語以外まあできる。

9.5：ちよ、問題発言聞こえましたが……

気の所為さ(笑)

10：座右の銘とかあつたりする?

面倒くさいをポリシーに

11：ダメな発言来たああ!

自分、脳内の八割が面倒くさいなんで(ドヤ

12：ダメ人間! ダメ人間がここに!!

HAHAHAHAHAHA!! (無表情

13：怖っ! つか何で無表情常備なんですか?

笑 う の 面 倒 い

14：友達います?

い……る。よ?

15：声震えても無表情なんですな

この信念は揺るがない(キリッ

16・趣味は？

歌う事とギター弾く事

17・日本語をどう思ってますか？

難しいもの。というか、敬語って何なの？

18・備考？

父親がイギリス人で、小学校は向こうの学校でした。

19・備考？

霊見えますぜ。ついでに被えます。

20・ご協力、どうも

よきにはからえ！

「あれだよ。自己紹介みたいな」（後書き）

ちなみに、作者の得意科目は理科と美術と家庭科。苦手科目は数学と英語。

あれ？ 理科得意なのに数学苦手？

さらにさらに、こないだのテストで一番良かったのは理科。悪かったのは数学でした。あれれれれ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9168z/>

ゆーれい日記

2011年12月29日14時51分発行